

ガールズ・サミットを終えて

国際ソロプチミスト日本西リジョン

ガバナー 小林 孝

私は、2年に1度開催されるガールズ・サミットを、いつも楽しみに待っていました。

それは、若い人たちから大きな感動をいただけるプログラムだからです。

2019年度は、今までの1泊2日の開催日程ではなく1日のみの日程に変更いたしました。

これは、国際ソロプチミストアメリカが策定した「若者と一緒に活動するための基準」を順守したからです。昨今、パワーハラスメント、セクシャルハラスメントが話題に上っています。これは、男女間のみの問題ではなく、女性間に於いても見られる現象で、若い人たちは、大人の何気ない言葉に暴力を受けたと感じたり、不適切な言動に不快感を持ったなど、私達大人が忘れてしまった若者のピュアな、ナイーブな感情を充分理解しなければならないからです。若者と一緒に宿泊を伴った活動をするためには、私たち大人が若者の心理や発育途中の身体について十分に学習した後でなければ、一緒に活動は出来ないという厳しい基準を理解しなければなりません。というわけで今回、初めて1日の日程で倉敷市のアイビースクエアを会場にサミットを開催しました。

“私らしく生きるために～これからできること乗り越えること～”というテーマのもと、55名の女子高校生たちは、222名のオブザーバーの見守る中、田淵泰子先生のご指導のもと、海綿が水を吸うように新しい知識を吸収し、自分の夢を語り合い全参加者の前で、10年後の姿を“**This is Me**”と堂々と発表してくださいました。本当に10年後に、また会ってみたいユースの皆様でした。また、サプライズで伊東香織倉敷市長が来場され、歓迎の言葉とエールを贈ってくださいました。立派な女性のリーダーを目の当たりにしてユースの皆様は良い刺激を受けたに違いありません。この経験を活かして、どうぞ未来へ大きく羽ばたいてください。そして、優秀な女子高校生を送り出して下さった学校とクラブの皆様には深く感謝申し上げます。